

平成27年度 東京都商品等安全対策協議会「子供に対するボタン電池等^{※1}の安全対策」

事故情報

〈東京都が把握した重篤な事故事例〉

- 1歳児がライト付き耳かきからコイン形リチウム電池を取出し、誤飲。気管と食道に孔が開き2か月入院（2013年8月 PIO-NET）（コイン形リチウム電池）
- 2歳児が電池保管している容器から電池を取出し誤飲。内視鏡で異物摘出。食道の腐食激しく27日間入院（2014年1月 国立成育医療研究センター受診事例）（コイン形リチウム電池）
- 1歳児が懐中電灯の電池収納部が壊れ誤飲。胃の中に2個あることが分かり、胃洗浄して摘出、1日入院（2014年1月 PIO-NET）（電池の種類不明）

〈東京都が把握した事故事例^{※2}〉

- 平成22年以降、ボタン電池等の誤飲、若しくは誤飲の疑いで受診、又は救急搬送された5歳以下の事例157件（誤飲した事例45件、そのうち入院23件）
- 誤飲または誤飲の疑いのある事例157件のうち、ボタン電池等の出所が明らかな事例は109件（玩具以外の製品50件、玩具35件、放置・保管中24件）

※2 情報収集先：東京消防庁、国立成育医療研究センター、全国消費生活情報ネットワークシステム(PIO-NET)

○上記の他、東京都ヒヤリ・ハット調査（3000人対象、2015年1月～2月実施）では、誤飲したことがある9件、誤飲しそうになった132件

〈海外の事故情報〉（2014年6月 OECD 報告より）

- 米国では、政府の中毒センターに毎年3500件の傷害が報告されており、任意団体であるNCPC（首都中毒センター）は、これまでに35件に及び死亡報告を受けている^{※3}。

※3 最も古い報告は1977年、2010年以降では18件

市場と安全対策

- ボタン電池等の販売量は国内メーカーによるものだけで2014年度約5億6千万個。その他国内メーカー以外の販売量が増加してきているものと推察される。
- 電池は単体で販売されるものよりも、製品に充填された状態で販売されるものが多い。
- （一社）電池工業会のガイドライン等^{※4}に注意表記の方法や子供の誤飲防止のための電池室（電池収納部）の安全対策について記載されているが、対応は各製品メーカーの判断による。

※4 「一次電池安全確保のための表示に関するガイドライン」、「乾電池使用機器の電池室・端子安全設計ガイドブック」「3V系リチウム一次電池使用機器の安全設計ガイドライン」



※1 ボタン電池等とは、コイン形リチウム電池及びその他のボタン形電池の一次電池を指す。

事業者・消費者への啓発の取組

〈国内〉

- 消費者庁のアンケート調査によると、ボタン電池等の誤飲は重症化することを知らない保護者は約6割
- 消費者庁と(独)国民生活センターは2014年のOECDのキャンペーンに参加し、平成26年6月、10月にボタン電池等誤飲の危険性について消費者へ注意喚起を行っている。
- (公財)日本中毒センターが注意喚起、情報の収集分析を行うほか、NPO 法人日本小児外科学会も警告^{※5}を発している。

※5 コイン形リチウム電池の危険性

- ①放電能力が高く30分から1時間で消化管の壁に潰瘍を作ってしまう。
- ②直径が大きいものも多く、食道に引っ掛かることが多い。

〈海外〉

- OECDはボタン電池等の誤飲事故の増加や問題意識の高まりを受け、ボタン電池等の安全性に関する国際啓発キャンペーンを実施した。（2014年6月）
- 一部のメーカーではNGO団体と連携し、チャイルドレジスタンス包装の製品の販売や注意喚起を行っている。



ハサミを使用しないと開かないCR包装の例

電池及び電池室に関する規格・基準

- 電池は、互換性や安全性確保等のために、国際規格(IEC)で厳密に構造や形状の仕様が規定されている。
- ボタン電池等の誤飲の危険性が、IEC規格及び日本・海外主要国のボタン電池等の規格に記載されており、注意表記することが定められている。
- 特に重篤な危害の恐れがあるリチウム一次電池のJIS規格が、2015年に改定され、誤飲により「死に至ることがある」旨記載された。
- JIS規格は任意規格であるが、国内電池メーカーの製品はJIS規格に準拠している。2015年JIS規格改定については、今後対応していく予定
- 玩具については、IEC規格があり、日本を含む全ての調査対象国^{※6}で安全基準が定められている。
- (一社)日本玩具協会のST基準では、「ボタン電池の蓋は工具等を使用しないと容易に開かない構造でなければならない」等と規定されている。
- 電池のJIS規格の附属書(参考)に製品の電池室(電池収納部)の安全対策について記載されている。具体的対策は各製品メーカーの判断による。
- 米国ではコイン形リチウム電池を使用する家庭用製品等を対象とする製品安全規格^{※7}制定の動きがある。

※6 米国、欧州、オーストラリア、中国、韓国 ※7 UL4200A

安全対策の強化が必要

協議会

- | | |
|--|----------------------------------|
| ○対象商品 コイン形リチウム電池及びその他のボタン形一次電池 | ○委員構成 消費者、事業者、学識経験者等の代表 |
| ○検討内容 ・誤飲事故の実態把握、要因分析 ・事故防止対策の検討 | ○検討期間 平成27年7月6日～12月 (3回開催) |

事例・実態の把握と検証

調査等

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------|
| ○アンケート調査 ・使用実態把握 ・ヒヤリ・ハット事例の収集 | ○文献調査等 国内外の事故状況、安全基準、規制状況 |
| ○事故再現実験 誤飲の被害状況、安全対策の検証等 | ○事故防止対策の方向性提案 |

結果

提言の方向性

- 消費者への情報提供
- 関係する業界団体等への情報提供と要望
- 国等への情報提供と要望

効果

事故の未然防止